

フェリス女学院

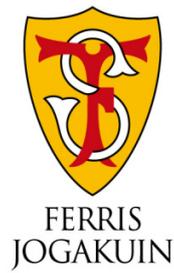
---

---

2026 年度事業計画書（概要）

---

---



## 目次

2026 年度事業計画策定にあたって	1
Ⅰ 2026 年度大学事業計画	2
Ⅱ 2026 年度中学校・高等学校事業計画	5
Ⅲ 2026 年度学院事業計画	10

## 2026年度事業計画策定にあたって

フェリス女学院は、現状の課題を克服し、さらに未来の発展につなげる道筋をつける計画として中期計画 2026-2028 を策定し、2026年度より実行いたします。

中期計画において、

大学は、大学の教育が学生に提供する中核価値として「3つの舞台」を設定し、これを支えるための「6つの基盤改革」を実行することを通じて、新たな価値を創造するための改革を実行します。

中高は、「学びのデザイン」に則した教育の質向上やキャリア教育の充実・進路指導の充実などの施策により、教育の質を向上させていきます。

学院（本部）は、大学・中高の質の高い教育を支えるための基盤であることを踏まえ、「経営基盤の強化」をメインテーマとし、既存業務の徹底的な見直し（DXを含む）、将来を支える人材の育成に取り組むとともに、強固な財政基盤の確立を図るため、財務施策にも取り組みます。

中期計画 2026-2028 に定めた施策の 2026 年度における具体的な実行計画として、本事業計画を策定しました。この計画を着実に実行することにより、少子化が進展する厳しい環境下においても「受験生から支持され社会から幅広く評価される教育機関」を目指してまいります。

2026年3月

学校法人フェリス女学院  
理事長 亀徳 忠正  
学院長 秋岡 陽

## I 2026年度大学事業計画

2026年度から、新たな「中期計画（2026～2028）」を始動させます。今後、18歳人口の急激な減少という大きな転換点を迎えるにあたり、本学が社会に提供する価値を問い直し、新たな価値を創造する大学へと生まれ変わるための改革を実施していきます。

本計画では、本学が提供する教育の中核的価値を「3つの舞台」※と表現し、これを確実に構築していきます。また、この「3つの舞台」を支えるための「6つの基盤」改革を行っていきます。

今年度の主な取組みは次のとおりです。

- ・特別指導学生等を中心とした面談・支援体制の徹底及びピア・サポート体制の連携強化
- ・国内連携プログラム（短期等）の開発・検討
- ・正課・正課外連携施策（キャリアナビ等）の実施・検証
- ・志願者確保に向けたオープンキャンパスの改革や早期層（高校1・2年生）へのアプローチ強化
- ・「学生の成長」を主軸とした広報の展開
- ・中期計画の進捗管理のためのダッシュボード運用の検討

危機を乗り越え、未来を創る大学へと進化するために、全学が一丸となってこの改革の第一歩を踏み出してまいります。

フェリス女学院大学  
学長 小檜山 ルイ

※ 本学が学生に提供する教育の中核的価値をブランドコアとし、学生を主語として「舞台」というコンセプトで表現したもの。

学生ひとり一人が自身の興味や価値観と丁寧に向き合い、周囲の評価に左右されることなく「自分らしさ」を見いだし、伸ばしていくために、本学は3つの舞台 - 「①安心して挑戦・失敗できる舞台、②異なる文化とつながる横浜の舞台、③社会で生きる実践の舞台」 - を用意している。これらの舞台での活動を通じて、日常のコミュニケーションや語学学習を通じて自己理解を深めるとともに、芸術活動や社会貢献活動、インターンシップから起業に至るまで、さまざまな領域で、学生自身の思いや価値観を自由に表現し、育んでいくことを目指す。

### 1. 「3つの舞台」（教育の提供価値）

#### 舞台1 安心して挑戦・失敗できる舞台

学生が教職員や仲間との対話を通じて、心理的安全性の高い環境で、失敗を恐れずに主体的に挑戦できる環境を実現する。特に、修学上の支援を必要とする学生へのケアを起点とし、段階的に全学生への支援へと波及させる。

- ・特別指導学生及び修学指導学生を中心とした面談・支援体制の徹底
- ・ピア・サポート体制の連携強化
- ・主体的な挑戦の支援と発信のため、フェリスチャレンジ制度の継続実施、並びに大学祭での発表の場づくり及び活動・成果の発信

## 舞台2 異なる文化とつながる横浜の舞台

---

国際都市・横浜の地の利を活かし、国内外の越境的な学びを通じて、グローバルな視野と対話力を育てる。

- ・国内連携プログラム（短期等）の開発・検討
- ・私費留学生受入に向けた日本語学校訪問の強化

## 舞台3 社会で生きる実践の舞台

---

正課教育と正課外活動を連携させ、キャリア形成支援を体系化し、自律的にキャリアを切り拓く力を養う。

- ・正課・正課外連携施策（キャリアナビ等）の実施・検証
- ・講演会等のイベントを複数部署で共同開催
- ・同窓会だけでなく、OGとのネットワークを活用した取組の検討
- ・PBLの定義見直し・多様化を進め、参加者増へアプローチ

## 2. 「6つの基盤」(改革を支える仕組み)

### 基盤1 教育研究体制の整備

---

学生支援の質を標準化・高度化し、舞台1～3の学びを支える体制を構築する。多様な学びを支える仕組みを拡充する。

- ・学修サポート機能の連携議論、図書館の学術資料整備
- ・3つの舞台で展開される新しい学びに連動した図書・データベース等の整備
- ・オンライン授業の活用

### 基盤2 学生募集・入試改革

---

適切な学生数および多様な学生を確保する。データに基づいた募集戦略を推進する。

- ・オープンキャンパス改革として、高校1・2年生へのアプローチ強化の継続実施
- ・データに基づいた募集戦略の立案

### 基盤3 戦略的広報の強化

---

「学生の成長」を主軸とした広報を展開し、大学のブランド価値と認知度を向上させる。

- ・取材・発信体制の構築、Web改修実施
- ・情報伝達の仕組み改善

- ・外部との関係構築

---

#### 基盤4 組織力強化

---

データに基づいた意思決定と、環境変化に対応できる機動的な組織体制を構築する。

- ・中期計画ダッシュボード運用の検討
- ・将来構想検討体制の整備

---

#### 基盤5 教育研究環境の整備

---

学生の学修スタイルやキャンパスライフの変化に対応した物理的・ICT環境を整備する。

- ・BYODに対応した教室数確保のため、教室改修の優先順位に基づき教室改修計画を作成
- ・山手キャンパスの活用促進に向けた利用実態調査、改善方針案の作成、山手キャンパス運用ルール整備
- ・山手キャンパスでの学生活動の定着化

---

#### 基盤6 収入増加・財政基盤の強化

---

多様な収入源を確保し、教育研究活動を支える安定的な財政基盤を構築する。

- ・施設貸与に関する条件・ルールの整備
- ・科目等履修生受講料等の料金体系や各種証明書発行手数料の見直し
- ・卒業生イベント（ホームカミング）の継続開催による卒業生との関係強化

## Ⅱ 2026年度中学校・高等学校事業計画

フェリス女学院中高は、生徒が自らの賜物を磨き、ミッションを見出して希望の進路を実現できるように、教育の質の向上を中心に据えた3年間の中期計画を立てました。2026年度は、その一年目として諸課題に取り組みます。

本校の教育の根幹であるキリスト教教育を充実させるとともに、生徒一人ひとりの学習意欲を高め、自律した学習者を育むために、教育の質の向上を図ります。中学の段階から客観的な観測を実施して到達度を把握し、学力の着実な定着を目指します。授業研究を深めるとともに、自習室の利用促進等、生徒が自ら学ぶ習慣を身に付けられるようサポートします。また、昨年度構築した体系的な探究プログラムをさらに充実・発展させ、課題を見出して取り組むことのできる環境を整えていきたいと考えています。そして、グローバルな視野に立ち、多様な学びの可能性を広げられるよう、仕組みを整えます。こうした教育の質向上の結果として、生徒一人ひとりが自分の関心分野や希望する進路を見出すことを期待しますが、同時にその希望する進路を実現できるように、キャリア教育・進路指導体制を整えていきます。

生徒が自分で考え決定していく過程は、学習や進路選択にとどまりません。学校生活を自分たち自身で考える取組みとして生徒ホール・リニューアル・プロジェクトを支援します。

一方で、不登校や多様な困り事を抱える生徒たちを、チームで支えられるよう、教員研修をさらに充実させます。

上記のような教育の質の向上を実現させ、外に発信することで、より多くの小学生およびその保護者がフェリスへの入学を希望するようになることを目指します。同時に、質向上の実現のためにも、適正な入学者の確保が欠かせません。奨学会（保護者）・白菊会（同窓生）の協力を仰ぎながら、また、教員と職員とが連携して、この改革を進めていく所存です。

フェリス女学院中学校・高等学校  
校長 阿部 素子

## 1. キリスト教教育のさらなる活性化

本校の基盤である「キリスト教教育」を生徒の人格形成に結び付け、「自分の生き方」として実践できるよう、日々の学校生活やキリスト教行事に取り組む。

- ・毎朝の礼拝や宗教行事への生徒の主体的な参加とキリスト教理解促進
- ・宗教行事と聖書の授業の連携
- ・高3 奉仕活動の在り方の検討とさらなる充実
- ・中1における自校教育の充実
- ・保護者のキリスト教教育への理解促進

## 2. 社会の変化のなかで自ら考え、学び続ける力を育む教育の実現

### (1) 「学びのデザイン」<sup>1</sup>に則した教育の質向上

学力の定着と向上を図るためには、生徒一人ひとりの習熟度に応じた授業の提供と学習習慣の定着支援が不可欠である。英語・数学を中心に習熟度別クラス編成を充実させるとともに、学力の客観的な観測や授業内容の振り返りを実施し、特別講座や学習支援体制を整備して効果的な学びを促進する。

- ・基礎学力定着を目的とした中1・中2の学力推移調査の実施
- ・中3～高2の英語・数学・国語における学力の客観的観測の実施
- ・中1～中3を対象とした学習メンター自習室を活用した学力の定着
- ・ライティングサポートデスクの設置
- ・特別講座の実施見直しと生徒の受講の促進
- ・現行カリキュラムの改善と次期カリキュラムの検討
- ・習熟度別クラス編成の充実

<sup>1</sup> 中学校・高等学校「学びのデザイン」 2024年度第31回教員会議（2025年2月19日開催）において決定。



## (2) 探究学習の強化

---

社会の変化に対応し、自律的に学ぶ力を育むため、探究学習と高大連携の充実が求められている。現状の体制や実践には改善の余地があり、本校では探究活動の質を高め、高大連携を活用した主体的な学びの実現を目指す。

- ・理系探究学習のための施設設置
- ・効果的な高大連携活動による探究学習のさらなる充実
- ・フィールドワークの計画と実施
- ・新規の大学連携の模索と協定締結の計画
- ・探究学習充実を目的とした教員研修の実施

## (3) グローバル教育の推進

---

グローバル化が進展する中で、異なる背景を持つ他者を尊重し、協働して平和で持続可能な社会の構築に貢献できる「地球市民」の育成が求められる。校内における異文化理解の取組みを充実させるとともに、海外の教育機関との連携や、海外留学・海外進学を志望する生徒への組織的な支援等を整備する。

- ・留学制度の整備及び生徒・保護者への説明・手続きの明確化
- ・異文化理解・他者理解に資する講演会の実施
- ・海外大学進学者の体験談を聞く会の実施
- ・海外大学との協定や指定校推薦枠確保のための活動の実施
- ・ユネスコスクール<sup>2</sup>加盟に向けた要件整理及び申請

# 3. キャリア教育・進路指導の充実

---

## (1) キャリア教育の充実

---

多様な進路希望に対応するため、進路指導の質向上と生徒・保護者へのきめ細やかな情報提供・面談の強化が求められている。現状の進路指導体制のさらなる充実を図り、キャリア教育の満足度向上を図る。

- ・保護者会でのキャリア教育に関する情報提供の充実
- ・生徒・保護者とのキャリア教育・進路に関する効果的な面談の検討・実施
- ・「アカデミックウィーク」<sup>3</sup>「卒業生に聞く」など生徒が将来を考えるきっかけとするためのプログラムの実施

---

<sup>2</sup> ユネスコスクール

ASPnet (Associated Schools Network)は、ユネスコの理念を学校現場で実践するための国際的なネットワーク。加盟校同士が活発に交流し、生徒間・教師間で情報や体験を分かち合い、地球規模の諸問題に若者が対処できるように新しい教育内容や手法の開発、発展を目指している。日本の加盟校は2025年9月時点で1,083校。

<sup>3</sup> アカデミックウィーク

中学校・高等学校で2025年度から開始した取組み。2025年度は11月10日(月)～11月14日(金)に実施。期間中は、大学教員による講義、大学訪問、企業見学など、生徒が実社会や学問の世界に触れるさまざまなプログラムが用意される。

## (2) 進路指導の充実

---

生徒の進学に対する意識の多様化や学力層の広がりに伴い、高等学校卒業時に一定数の大学進学先未定者が生じている。従来の進路指導の在り方を見直し、生徒一人ひとりの希望に沿った進路が実現できるよう支援体制を整備し、学校が示す教育力の一つとしての進学実績を向上させる。

- ・高3対象の模試の新規実施
- ・高1及び高2対象の模試の回数の増加
- ・中3～高3模擬試験の結果分析と学習改善に向けた活用

## 4. 生徒支援体制の強化

---

予測困難で変化の激しい時代において、生徒一人ひとりが自立し、主体的に思考し、他者と共に生きていく力を育む支援をする。また、さまざまな困難を抱える生徒に対して適切に対応ができるよう、教員の資質向上を目指した教員研修を実施する。環境の整備や教育相談体制の充実を進め、生徒が安心して学べる学校づくりを推進する。

- ・学校生活をとおして生徒が自ら考え、協働できるように支援する役割の強化
- ・教育相談主任・生徒支援部長・相談室・保健室、担任との連携強化によるチームとして動ける体制の充実
- ・不登校生徒の教育機会確保と復帰支援を目的とした校内教育支援センター（スペシャルサポートルーム）の充実
- ・「合理的配慮」への具体的な対応と適切な支援
- ・課題予防的取組みの拡充
- ・「子ども性暴力防止法」への適切な対応

## 5. 入試広報の充実と安定的な入学者の確保

---

学校説明会や個別相談会等の受験生や保護者と直接関わる広報活動を一層充実させるとともに、ホームページやニュースレター等を活用した情報提供を強化し、内外への発信力の向上を図る。また、アドミッション・ポリシーに基づいた生徒募集、公平性に配慮した入学試験を実施し、安定的な入学者の確保につなげる。

- ・入試と広報を連動させた戦略的な情報発信
- ・校長のビジョン、教育改革に関する各種メディアへの積極的な発信
- ・生徒の活動を公開するイベントの実施
- ・アドミッション・ポリシーに基づく公平性に配慮した入学試験の実施
- ・安定的な入学者確保に向けた入試改革の継続的な取組み

## 6. 学校関係者との連携強化

---

生徒を取り巻く社会環境が絶え間なく変化するなか、学校と各家庭・保護者との連携強化はより良い教育環境を築くうえでこれまで以上に重要性を増している。また、卒業生・同窓会との情報共有や協

力体制の構築は、学校の教育活動をさらに充実させるために欠かすことができない。併せて、地域および周辺関連団体との良好な関係性を深化させるべく、学校としても積極的に働きかけを行い、多様なステークホルダーとの協働体制を整備する。

- ・積極的な情報発信や相談室の利用を始めとする保護者への支援
- ・卒業生に向けた情報発信による協働関係の構築
- ・奨学会、同窓会との継続的な協力・連携活動の実施
- ・地域の団体との協力・連携活動の実施

## **7. 教育の質の維持・向上のための組織力の強化**

---

中期計画を推進し、教育の質の維持・向上を可能とする体制を構築するためには、部会・委員会の構成変更など学校組織の見直しも必要となる。あわせて教員と職員の連携強化も不可欠である。多様な施策を円滑に進めることで教育の質のさらなる向上とそのための安定した学校運営を目指すため、組織力の強化を図る。

- ・グローバル教育の推進を教育企画部会の分掌とすることによる新たな取組みの展開
- ・教職協働による中期計画・事業計画の推進

## Ⅲ 2026年度学院（本部）事業計画

フェリス女学院は、現状の課題を克服し、さらに未来の発展につなげる道筋をつける計画として「中期計画 2026-2028」を策定しました。

2026年度事業計画は、この「中期計画 2026-2028」初年度の具体的な実行計画であり、学院（本部）は学院全体のキャッシュフローのプラスを維持したうえで、中期計画最終年度までに基本金組入前当年度収支差額のさらなる改善に道筋をつけるべく、以下の施策に取り組みます。

「1. 組織力の強化・人材育成」は、業務の徹底的な見直しにより、より付加価値の高い業務への人材のシフトを図り、より適応力のある組織に転換していきます。また、職員の業務に関する必要スキルを明確化し、計画的な人材育成を行います。

「2. 収入増加策の積み上げ」は、「維持協力会」による寄付金募集に加え、特定テーマを定めた寄付金募集体制を新たに構築し、大学・中高とともに寄付金を増強します。

「3. 新たな経費構造の構築」は、上記 1. で取り組む業務見直しを反映し、メリハリのある支出構造に転換していきます。

「4. 財政計画」は、基本金組入前当年度収支差額のさらなる改善に道筋をつけるべく目標を設定し、その進捗をチェックしていくとともに、必要に応じ適時適切な対策を講じていきます。

「5. 施設・環境整備計画」は、必要な投資を厳選したうえで、教育活動を支える施設・環境を計画的に整備します。

「中期計画 2026-2028」では学院（本部）を大学・中高の質の高い教育を支える基盤であると位置づけ、これを将来にわたり揺るぎないものとするため、「経営基盤の強化」をメインテーマとしました。

この事業計画を着実に実行することにより、揺るぎない経営基盤を確立するとともに、中期計画最終年度までに基本金組入前当年度収支差額のさらなる改善に道筋をつけていきます。

学校法人フェリス女学院  
学 院 長 秋岡 陽  
事務局長 星野 薫

### 1. 組織力の強化・人材育成

#### (1) 業務の徹底的な見直し

非効率業務を洗い出し、その見直しを行うことで組織の規模の適正化を図るとともに、業務の省力化により捻出された時間や人材をより付加価値の高い業務にシフトし、より適応力のある「強い組織」への転換を図っていく。

- ・電子契約の利用率拡大
- ・業務見直しチームによる各課個別業務の見直し
- ・DX、AI利用の検討、実行

#### (2) キャリアを磨く人事・仕組みの導入

上記(1)の施策を各組織の所属職員が実行することにより、仕事の充実度を向上させ、各職員の成長を促す。また、職員に必要なスキルの明確化を行うとともに、必要な知識習得や業務経験の機会を計画

的に与え育成する。加えて、組織の全体最適を考慮しつつ、各職員のキャリア希望を踏まえた配属を実施することにより、各職員が成長を実感できるような育成を行う。

- ・スキルマップの作成
- ・包括的育成プログラムの開発、導入

## 2. 収入増加策の積み上げ

---

大学入学者数の入学定員割れにより、収入増加への取組みは喫緊の課題である。大学の志願者・入学者確保の施策に加え、以下の施策を実行することにより、学院全体の収入増加を図る。

### (1) 寄附金収入の強化

---

維持協力は引き続き着実な寄付金収入を確保するとともに、増強を図っていく。

- ・寄付者への継続した広報活動
- ・同窓会と連携した卒業生への働きかけ
- ・維持協会会員対象イベントの開催

### (2) 新たな寄付金の取組み

---

大学・中高が特定のテーマに使用目的を定めた寄付金等を募集する場合の体制を整備する。本部は、当該寄付金が円滑に募集できるよう体制を整備する。大学・中高は寄付金を活用し、教育の質向上や教育環境の整備等を図る（大学中計施策、基盤6と連動）。

- ・大学、中高発案プロジェクトの寄付募集、業務遂行
- ・リサイクル募金の実施
- ・クラウドファンディングの実施準備

## 3. 新たな経費構造の構築

---

### (1) 新たな経費構造の構築（大学・中高・学院共通）

---

大学・中高の教育の質向上に関する施策に加え、上記1～2を踏まえたうえで、従来の教育研究経費・管理経費を全面的に見直し、人件費も含め新たな体制に見合う経費構造を構築する。

- ・業務見直し結果を反映させた支出計画の策定
- ・予算編成作業を通じたメリハリのある支出構造の構築

## 4. 財政計画

---

### (1) 財政目標の設定

---

財政の安定化、収支の継続的な黒字を実現するために、学院としての財政目標を以下のとおり定め、学院及び各部門で目標を実現するための各種施策を中期計画期間を通じて検討、実施する。

《財務目標項目》

- ・事業活動収入
- ・学納金収入

- ・キャッシュフロー（基本金組入前当年度収支差額+減価償却費）
- ・人件費
- ・寄付金収入
- ・純金融資産
- ・施設・環境設備（ICT含む）支出

## (2) 中期財政計画の策定

---

大学・中高の改革、財政の安定化、収支の継続的な黒字を実現し、上記財政目標を達成するため、以下の施策を実行する。

- ・財政目標達成を目指した予算編成方針の策定
- ・施策実行（金額は区切る）ごとの財政シミュレーションの実施
- ・財政目標達成のための必要施策の実行

## 5. 施設・環境整備計画

---

### (1) 施設・環境整備計画

---

建物等の施設・環境整備は、支出額が大きく、また管理対象も多いことから、中長期的な施設・環境整備計画を事前に定め、計画的に整備を進める必要がある。財政目標水準に配慮したうえで、こうした施設・環境整備計画を策定し、実行する。

### (2) 学院ネットワーク環境整備計画

---

ネットワーク機器は、ICT化促進のため、時宜を得た新設備の導入、既存設備の更新を行う必要があり、またその支出額が大きいことから、中長期的な学院ネットワーク環境整備計画を事前に定め、計画的に整備を進める必要がある。財政目標水準に配慮したうえで、こうした学院ネットワーク環境整備計画を策定し、実行する。





学校法人  
フェリス女学院

〒231-8660 横浜市中区山手町 178  
TEL 045-662-4511(代表)